

県内の小・中・特別支援学校にサッカーボールを寄贈します

コープながの 30 周年記念事業 サッカーボール寄贈の取り組みについて

CO-OP
コープながの
食卓を笑顔に、地域を豊かに。



発行 総合企画室

7月11日（月）、千曲市立埴生小学校、上田市立中塩田小学校に、サッカーボールを寄贈しました。これは、コープながの30周年記念事業の一環で、教職員グループ保険の引き受け保険会社である明治安田生命にご協力いただき、学校職域センターが計画したもので、県内の小・中・特別支援学校120校へサッカーボールを寄贈します。スタートとなるこの日は、寄贈セレモニーが行われました。



寄贈用ボール。長野パルセイロのロゴ入りボールにはコープながの30周年のロゴも入っています。



児童会長・体育委員長にボールを渡す丸田理事（埴生小学校）



ボールにサインをする
リュウ選手（AC長野パルセイロ）

セレモニーでは、コープながのを代表し、丸田理事、深澤理事が挨拶をしました。丸田理事はコープながのや学校職域事業について説明し、その中で「コープながののあり方は、みんなの学校生活を豊かにする児童会にも似ていると思います。すてきな小学校に磨きがかかることを願っています」と述べました。深澤理事は子どもたちに、「これから夏を迎えますが、熱中症に注意して、サッカーボールを使って元気に遊んでほしいと思います」と述べました。中塩田小学校の寄贈セレモニーには、同校出身のサッカー選手、リュウ・ヌグラハ選手（AC長野パルセイロ所属）が出席し、サイン入りのサッカーボールを手渡ししました。現役サッカー選手の登場に、生徒たちは大喜びでした。これから8月下旬にかけて、対象校にサッカーボールを寄贈します。また、明治安田生命にご協力いただき、AC長野パルセイロサッカークラブによる長野市内の小中学校を対象としたサッカー教室の開催も、今後検討しています。



ボールと色紙を受け取った
児童会長（中塩田小学校）